

令和4年度広島県病院事業経営計画の目標指標
 <<広島病院>>

【設定区分】
 (ア) 現行目標指標の継続、(イ) 現行目標指標の修正(見直し)、(ウ) 外部評価委員会の意見を踏まえて新設
 (エ) 新型コロナウイルス感染症の影響を踏まえて新設、(オ) その他の課題等を踏まえて新設

参考資料2

目標指標(旧)【43項目】	重点指標	モニタリング	外部評価委員意見等
(1) 医療機能の強化			
I 医療提供体制の強化			
救急			
1) 救急車・ヘリ受入台数	○	○	■救急車受入、入院になった数、ヘリ受入数をわかるようにすること。(中西委員)
2) ドクターカー搬送件数			【変更理由】救命救急センターとして、重症患者を要請に応じて受け入れることが重要であり、件数から三次救急の対応状況を表す率へ変更する。 ■二次救急の機能を評価するのであれば受け入れ数は意義あると考える。三次救急の機能ということになる。二次救急からの転送受け入れ率のほうより合理的な指標になるのではないか。(谷田委員長)
3) 脳心臓血管センター新規入院患者数		○	■脳血管、心血管新規患者数の区別をすること。(中西委員)
4) PCI対象疾患に対するPCI実施件数			■脳心臓血管医療は、循環器病対策推進計画の内容に基づき、県の医療の中で重点的に取組むべきことから重点指標としてよいのではないかと。(中西委員) ■PCI検査のさらなる充実を図るべきである。(和田委員)
5) 急性期リハビリテーション件数 ※脳血管疾患等リハビリテーション件数及び心臓血管疾患等リハビリテーション件数の合計			■広島県は心臓リハビリが少ないと言われておりますので件数を算定すること。(中西委員)
6) NICU・GCU患者数		○	■NICU/GCUは広域の三次医療であると思うので、単なる新生児受け入れと誤解されないよう工夫が必要ではないかと。
7) 緊急母体搬送受入件数			
8) 生殖医療科採卵件数			
9) 生殖医療科遺伝カウンセリング件数			
10) がん患者数(入院)			
11) がんゲノム検査件数		○	○
12) 消化器センター新規入院患者数			
13) 全身麻酔手術件数			
14) クリニカルパス適用率			■クリニカルパスの適用%を増やすこと。(和田委員)

目標指標(新)【61項目】	H29目標	H30目標	R元実績	R2実績	R3実績(見込み)	R4目標(モニタリング)	重点指標(モニタリング)	モニタリング選定理由	区分	設定理由
(1) 医療機能の強化										
I 医療提供体制の強化										
救急										
1) 救急車受入台数	5,500台	5,700台	5,850台	6,000台	6,000台	6,400台	○	救急医療に關しての取組状況が最も端的に表れる基本的な指標であるため。	イ	救急医療提供体制の最も重要な指標の一つである。R3年度の見込みは6,000台で、R4上半期は月平均120台搬送を受け入れてきた。その3割を向うとして受け入れることを目標とした。(救急車・ヘリ、ドクターカーの内訳はモニタリング時に記載する。)
2) 三次救急(ホットライン)受入率	算出中	算出中	算出中	算出中	算出中	100%			イ、ウ	救命救急センターとしての役割を果たしているかを表象する指標であるため設定する。
3) 二次医療機関からの重症患者受入応需率	算出中	算出中	算出中	算出中	算出中	100%			ウ	三次救急医療機関として二次医療機関からの重症患者の紹介受入は地域医療における重要な役割であるため設定する。
4) 脳血管系と心血管系の新規入院患者及び救急外来からの緊急入院患者数	3,004人	2,882人	2,990人	2,940人	2,886人	2,850人	○	脳心臓血管センターの診療実績、患者の受入状況を示す指標であるため。	イ、ウ	緊急入院の増加は重症者の受け入れをしっかりとっているという指標になる。(脳血管、心血管の内訳はモニタリング時に記載する。)
5) 急性心筋梗塞PCI件数	100件	93件	98件	131件	106件	130件			イ、ウ	広島県循環器病対策推進計画において、質が高く適切な保健医療提供体制の確保が重点項目に上がっている。その観点から広島県が全国平均を下回っている治療の強化をしていくことが、本院の目標であり、当院の使命でもある。
6) 急性期脳卒中に対するtPA治療件数	27件	30件	34件	23件	29件	40件			イ、ウ	PCIに関しては、広島県循環器病対策推進計画のワーキングの中で、件数ではなく、急性期脳卒中に対する件数が重要であることが議論された。広島県は急性心筋梗塞に対するPCIの件数(人口10万人あたり)は全国平均を下回っている(142.9 vs 167.1)。
7) 急性期脳卒中に対する血管内カテーテルによる血栓回収療法件数	24件	17件	29件	32件	26件	30件			イ、ウ	広島県は脳梗塞に対する脳血管内治療実施可能な医療施設数(人口10万人あたり)は全国平均を下回っている(4.1 vs 5.3 and 3.8 vs 4.4)。
8) 未破裂、破裂動脈流の治療件数	73件	71件	73件	78件	74件	75件			イ、ウ	広島県は脳血管外科手術件数(人口10万人あたり)は全国平均を下回っている(6.9 vs 12.4)。これらの治療件数を重点指標としてあげ、症例数を増やしていくことは、広島県の保健医療提供体制に貢献することになると考える。
9) 大心血管手術件数	85件	62件	55件	75件	70件	75件			イ、ウ	
10) 急性期リハビリテーション件数 ※脳血管疾患等リハビリテーション件数及び心臓血管疾患等リハビリテーション件数の合計	48,829件	44,487件	38,963件	44,108件	39,222件	35,500件			ア	これからも、健康寿命の延伸のためにリハビリの重要性が益々高まる。広島県の健康寿命は男女ともに全国平均を下回っている。男性71.97歳(全国72.14歳)全国27位、女性73.62歳(全国74.79歳)全国46位、平均寿命は男性81.08歳(全国9位)、女性87.33歳(全国10位)であり、広島県は平均寿命と健康寿命の差が全国に比べて大きいことが分かる。 上記治療件数を増やして、急性期の治療をいかに早く施行し、リハビリを含めて後遺症なく行っていくことが健康寿命の延伸につながるかと考える。
11) 1,000g未満出生新生児患者数受入の県内割合	62.5%	52.5%	57.4%	55.1%	50.0%	50%			イ、ウ、オ	当院は県内に2つある総合周産期母子医療センターの一つであり、最も未熟児が集中する1,000g未満の出生児の出生児の入院患者を診療することがセンターとしての任務と見え、広島県内における割合を目標指標として設定する。
12) 緊急母体搬送受入件数	150件	150件	150件	150件	131件	125件	○	周産期医療における応需の状況と実績を示す指標であるため。	ア	近年の分娩数減少の傾向を踏まえ、H29計画から17%減とし、125件と設定する。
13) 生殖医療科採卵件数	330件	330件	330件	330件	300件	300件			ア	新型コロナウイルスの影響を比較的受けていないことを踏まえ、現行と同様に300件と設定する。
14) 生殖医療科遺伝カウンセリング件数	284件	283件	282件	241件	273件	110件			ア	上記と同様の考え方とし、現行と同様に110件と設定する。
15) 生殖医療科で妊娠が成立した妊婦が産婦人科へ院内紹介された件数	0件	2件	1件	105件	115件	100件			オ	当院で扱う不妊治療の傾向として、何らかのリスクを既に有する患者が多く、妊娠が成立しても、ハイリスク出産となる可能性が高いが一定数存在する。不妊治療から妊娠から分娩、出生、成長と一貫した成人医療を提供する当院の役割を表す指標として設定した。
16) がん患者数(入院)	5,000人	5,100人	5,100人	5,100人	5,200人	5,400人			ア	新たに手術支援機器を導入したこと、令和4年度には放射線治療器の更新が予定されていることからがん患者は増加すると見込み5,400人とする。
17) がんゲノム検査件数	4,729人	4,869人	5,456人	5,168人	5,055人	180件	○	がん医療に關して個別化医療を実施していることが示せること。また臨床遺伝専門医があり、当院の特色を示す指標であるため。	ア	2019年6月にがんゲノム検査が保険適用となり、実施件数が2019年度77件、20年度109件、2021年度約150件と増加した。更に積極的にがんゲノム検査を実施しがん医療の向上に取り組みため180件と設定した。
18) 消化器センター新規入院患者数	2,400人	2,430人	2,460人	2,500人	2,500人	2,600人			ア	新型コロナウイルス感染症による受診患者数減少と診療体制変更のため令和2年度の全身麻酔手術件数と内視鏡検査件数は令和元年度と比較して10%弱の減少となり、令和3年度も同じ傾向が続いた。現在、流行は再帰しつつあり、各件数は再増加しつつあるが、まだパンデミック前までの回復に至っていない。そのため、令和4年度目標は令和2年度設定まで回復させるとして2,600人と設定する。
19) 全身麻酔手術件数	4,400件	4,400件	4,400件	4,400件	4,500件	4,500件			ア	令和元年度が4,663件であり、コロナの影響で軽減する可能性を考え4,500件が適当と考えた。
20) 遺伝カウンセリング算定件数	4,571件	4,742件	4,663件	4,217件	4,134件	120件			オ	遺伝カウンセリングは成人医療とがん医療の双方に関連し、遺伝子検査に基づいた個別化医療の実施とそのカウンセリングが可能であること及び臨床遺伝専門医がいる当院の特色を示す指標であるため
21) DPC/PPDS入院期間Ⅰでの退院例のパス適用率、DPC/PPDS入院期間Ⅱでの退院例のパス適用率	算出中	算出中	算出中	算出中	算出中	I. 40% II. 50%			イ、ウ	期間Ⅰでの退院例は47%が予定入院パス適用率は28%、期間Ⅱでの退院例は64%が予定入院パス適用率は42%となっている。期間Ⅰでの退院はもともとパスがない症例が多これらに対応するパスを作成し入院期間の適正化を図る。4月の診療点数改定を見据え、パスの内容の再検討を行い、期間Ⅱ退院症例でもパス適用率を上げる。

令和4年度広島県病院事業経営計画の目標指標
 <<広島病院>>

【設定区分】
 (ア) 現行目標指標の継続、(イ) 現行目標指標の修正(見直し)、(ウ) 外部評価委員会の意見を踏まえて新設
 (エ) 新型コロナウイルス感染症の影響を踏まえて新設、(オ) その他の課題等を踏まえて新設

参考資料2

目標指標(旧)【43項目】	重点指標	モニタリング	外部評価委員意見等
II 医療の安全と質の向上			
17) 認知症ケア加算算定件数			
19) 褥瘡ハイリスク患者ケア加算算定件数			
15) 転倒・転落発生率(レベル2以上)			
18) せん妄ハイリスク患者ケア加算算定件数			
20) がん患者指導管理料算定件数(イ及びロ※) ※がん患者指導料のうち看護師関与分			
16) 入院期間Ⅱ超え割合	○	○	
III 危機管理対応力の強化			
21) 災害対応訓練参加者数			
IV 地域連携の強化			
22) 患者紹介率			
23) 患者逆紹介率			
24) 院内研修への地域医療従事者の参加者数			
25) 地域への教育活動件数			



目標指標(新)【61項目】	H29目標	H30目標	R元目標	R2目標	R3目標	R4目標	重点指標(モニタリング)	モニタリング選定理由	区分	設定理由
	H29実績	H30実績	R元実績	R2実績	R3実績(見込み)					
II 医療の安全と質の向上										
チーム医療の推進	22) 認知症ケア加算算定件数	2,622件	2,123件	1,813件	2,267件	2,485件	2,500件		ア	チーム医療に係る取組は医療の質・在院日数に大きく関連するとの考えから、現時点で院内で編成しているチームとその算定可能な加算について、再構成して設定する。 R4年度は新型コロナウイルス感染症対応による影響が低減することを見据え、R元年度の実績を基に目標値を設定した。 R元実績 1,813件 R2実績 2,267件(+454件) R3上半期実績 1,138件
	23) 褥瘡ハイリスク患者ケア加算算定件数	2,212件	3,751件	3,832件	3,891件	3,638件	3,800件		ア	R元実績 3,832件 R2実績 3,891件(+59件) R3上半期実績 1,819件
	24) 栄養サポートチーム加算算定件数	940件	868件	1,132件	797件	651件	1,100件		オ	R元実績 1,132件 R2実績 797件(▲335件) R3上半期実績 316件
	25) 糖尿病透析予防指導管理料算定件数	36件	24件	0件	10件	17件	10件		オ	R元実績 0件 R2実績 10件(+10件) R3上半期実績 8件
	26) 周術期口腔機能管理料算定件数	8,663件	6,275件	6,020件	6,049件	6,106件	6,000件		オ	R元実績 6,020件 R2実績 6,049件(+29件) R3上半期実績 2,953件
	27) 摂食機能療法算定件数	1,133件	1,062件	445件	596件	617件	600件		オ	R元実績 445件 R2実績 596件(+151件) R3上半期実績 288件
	28) 精神科リエゾンチーム加算算定件数	26件	97件	88件	84件	89件	100件		オ	R元実績 88件 R2実績 84件(▲4件) R3上半期実績 52件
	看護の質向上	29) 転倒・転落発生率 レベル2以上(軽度の処置を必要とした)	-	-	2.30%	0.47%	0.31%	0.30%以下		イ
30) 既に有していた褥瘡の改善率		-	-	69.0%	71.7%	71.0%	72.0%		オ	別途褥瘡に関する加算の件数を掲げているが、褥瘡対策に関するアウトカムを評価する指標として、新規に設定する。またDINQLを通じ、他施設との比較が可能である。 R元実績 68.95%(DINQLデータ全国中央値60.27%) R2実績71.72%(51.59%)
31) せん妄ハイリスク患者ケア加算算定件数		-	-	-	7,109件	6,900件	8,000件		ア	急性期医療を提供する病院として、せん妄対策は必須であり、看護師が行うリスクの評価、その評価に対する対策の立案・実施の状況を表す指標として設定する。 R元実績 0件 R2実績 7,109件(+7,109件) R310月実績 4,025件
その他	32) がん患者指導管理料算定件数(ロ※) ※がん患者指導料のうち看護師関与分	283件	324件	293件	341件	212件	400件		イ	がん患者に対し、心理的不安の軽減を目的に患者と対話しているのは主に看護師であり、それを診療報酬上評価している当該指導管理料の件数を看護師によるカウンセリングの状況を表すものとして設定する。
	33) 入院期間Ⅱ超え割合	28.0%	27.6%	26.7%	25.6%	21.2%	20%	○	ア	疾病単位での在院日数の状況から、入院医療についての安全性、効率性を一定程度表す指標であるため、 現在期間Ⅱ超えの症例は22%であり、ほぼ適正と考えられるが、地域連携介入の時期を早めることなどを通じ更に入院期間の適正化に努める。
34) インフルエンザ・COVID-19アウトブレイク件数	算出中	算出中	算出中	算出中	算出中	0件			エ	R2実績ゼロ R3上半期実績 ゼロ 上記と同様に、感染症対策も施設基準上実施が求められるが、発生防止と対策の有効性の指標として設定する。
III 危機管理対応力の強化										
35) 院内災害対応訓練参加者数	-	-	106人	2,191人	2,363人	2,500人			イ	安否確認システム訓練(2回)、トリアージ訓練(4回)、院内災害対応訓練で少なくとも全職員が2回は参加することを目標とする。
36) 当院企画の災害訓練・研修会への参加医療機関数	-	-	9施設	10施設	12施設	18施設			オ	基幹災害拠点病院として災害拠点病院(18病院)に研修、訓練を行っており、全医療機関に参加してもらうことを目標とする。
IV 地域連携の強化										
37) 患者紹介率	83.0%	85.0%	87.0%	90.0%	93.0%	93.0%			ア	上半期の実績から今年度は目標の93%程度は見込まれるが、変異株など新型コロナウイルスの影響も考慮して、次年度も同様の93%を目標とする。
	97.7%	93.4%	93.5%	88.1%	94.0%					
38) 患者逆紹介率	100.0%	105.0%	107.0%	110.0%	120.0%	125%			ア	今年度は目標の120%を上回る紹介率が見込まれるため、次年度は5ポイントアップの125%を目標とする。
	114.1%	125.6%	120.6%	120.7%	133.2%					
39) 院内研修への地域医療従事者の参加者数	450人	450人	450人	450人	450人	160人			ア	新型コロナウイルスの状況次第ではあるが、一旦減少したため早期の回復は見込めず160人と設定する。
	484人	620人	567人	170人	82人					
40) 地域への教育活動件数						280件			ア	医療を担う人材の確保・育成の取組方針の状況を示すものとして従前のおり設定する。
	390件	257件	289件	196件	200件					

令和4年度広島県病院事業経営計画の目標指標
 <<広島病院>>

【設定区分】
 (ア) 現行目標指標の継続、(イ) 現行目標指標の修正(見直し)、(ウ) 外部評価委員会の意見を踏まえて新設
 (エ) 新型コロナウイルス感染症の影響を踏まえて新設、(オ) その他の課題等を踏まえて新設

参考資料2

目標指標(旧)【43項目】	重点指標	モニタリング	外部評価委員意見等
(2) 人材育成機能の維持			
V 医師の確保・育成			
26) 指導医講習会新規受講者数			
27) 初期臨床研修医選考試験応募者数			
VI 看護師等の確保・育成			
28) 看護師の定着率(定年退職を除く)			
29) 認定・専門看護師数			
30) コメディカル部門の認定資格取得・専門的研修参加者数(放射線、検査、薬剤、栄養、リハビリ、ME)			
VII 県内医療水準向上への貢献			
31) 医師・看護師等の講師派遣回数			
(3) 患者満足度の向上			
VIII 患者満足度の向上			
32) 患者意見箱に投稿された意見に対して実効的な改善に取り組んだ件数			
33) 患者アンケートの満足度(入院・外来)			
IX 業務改善			
34) TQM手法習得者数(新規)			
X 広報の充実			
35) 取材協力件数			
36) プレスリリース件数			
(4) 経営基盤の強化			
XI 経営力の強化			
37) 新規入院患者数		○	
38) 病床稼働率(700床)			
XII 増収対策			
39) 入院準備		○	
40) 特定入院料の算定率(ICU)			
41) 特定入院料の算定率(HCU※) ※救命救急入院料算定病床			
XIII 費用合理化対策			
42) 材料費/医療収益			
43) 後発医薬品効果額			■後発医薬品について数量ではなく金額ベースで比較することがよい。(和田委員)

目標指標(新)【61項目】	H29目標	H30目標	R元目標	R2目標	R3目標	R4目標	重点指標(モニタリング)	モニタリング選定理由	区分	設定理由
	H29実績	H30実績	R元実績	R2実績	R3実績(見込み)					
(2) 人材育成機能の維持										
V 医師の確保・育成										
41) 専門研修プログラム専攻医数	-	広病 0人 他 31人	広病 1人 他 32人	広病 3人 他 35人	広病 7人 他 32人	7人	広病2人 他 40人		イ	若手医師の育成の状況を示すものとして新規に設定する。
42) 臨床研修指導医新規受講者数		6人	6人	7人	0人	11人	7人		イ	これまでの実績を踏まえ7人を目標数値とする。
43) 初期臨床研修医採用マッチ率		100%	100%	100%	100%	100%	100%		イ	研修医から当院が研修施設として高く評価を受け続けていることを示す指標としてフルマッチ100%を設定した。
44) 初期臨床研修医広島県内定着率		81.3%	85.7%	94.1%	88.9%	100.0%	85.7%		イ	広島県の医師不足対策に貢献するため、育成した研修医が当院の研修終了時に広島県内の医療機関に将来就職する意向を示す割合を目標として設定した。
VI 看護師等の確保・育成										
45) 看護師の離職率(定年退職を除く)	算出中	算出中	算出中	算出中	算出中		6.6%		イ	日本看護協会のDINQLEデータは、離職率となっており、目標指標を離職率に変更する。 R元離職率6.64%、新卒0% (同規模病床数の全国中央値8.65%、6.27%) R2離職率6.69%、新卒10.0% (同規模病床数の全国中央値7.37%、6.49%)
46) 認定・専門・特定行為研修修了看護師数領域別確保数【17領域37名(新規2名)、(特定行為研修者ががん薬物療法(1)心不全看護(1))】		1人	2人	1人	0人	1人	2人		イ	スペシャリストの人材育成と定着は医療の質、医師のタスクシフティングの観点からも重要である。領域別確保数と特定行為研修修了看護師数を追加する。 R2年度: 救急医療(5)がん領域(9)成育医療(5)皮膚・排泄ケア(3)感染管理(3)摂食・嚥下(3)脳卒中リハビリ(1)認知症(4)透析(1)心不全(1)17領域35名、特定行為研修修了者1名
47) メディカルスタッフ部門の認定資格取得・専門的資格取得者数(放射線、検査、薬剤、栄養、リハビリ、ME)		147人	129人	114人	算出中	60人	60人		ア	従前のとおり育成を継続する。
48) 学生実習の受け入れ実績(緊急事態宣言期間以外は原則受け入れる)		426人	478人	437人	69人	算出中	調整中	過去実績から算出する。	オ	R元～2年度は新型コロナウイルス対応のため学生実習の受け入れが困難であったが、看護師の育成、定着のためには積極的に受け入れを行う必要がある。 R2実績: 大学(4校)、専修学校(2校)、通信教育(1校)、認定看護師教育(2校)
VII 県内医療水準向上への貢献										
49) 医師・看護師等の講師派遣回数	200回 390回	200回 257回	200回 289回	200回 203回	200回 200回	200回	200回		ア	特段変更する理由がないため、同様とする。
(3) 患者満足度の向上										
VIII 患者満足度の向上										
50) 患者意見箱に投稿された意見に対して実効的な改善に取り組んだ割合		78.2%	68.4%	88.6%	65.0%	75.6%	75.0%		イ	投稿内容によっては、病院の努力では解決不可能な課題もあり、投稿件数に対する取り組みの割合での評価が妥当と考える。過去5年の実績から75%を設定する。
51) 患者アンケートの満足度(入院・外来)		97.3%	96.4%	97.1%	97.0%	97.5%	97.5%		ア	現行と同様とする。
IX 業務改善										
52) TQM手法習得者数(累積)		219人	329人	431人	541人	678人	719人		イ	4年後に医師を除く職員の70%がQC手法を取得することを目標とする。
X 広報の充実										
53) 取材協力件数		4件	4件	6件	8件	40件	10件		ア	新型コロナウイルスの対応状況やその他の医療機能、事務事業に対する取材協力要請には積極的に対応するが、令和3年度と同程度の件数を目標とする。
54) プレスリリース件数		1件	0件	0件	0件	1件	5件		ア	県内初、中国地方初など注目される新規の医療機能の強化、事務事業の開始などが当面見込めないため病院側からの発信であるプレスリリース件数は5件とし、上段の報道機関側からの取材要請、協力を重点を置く。
(4) 経営基盤の強化										
XI 経営力の強化										
55) 新規入院患者数	16,920人 17,313人	17,000人 16,834人	17,000人 16,825人	17,000人 15,624人	17,000人 15,700人	16,900人	○	病院のアクティビティを総合的に示す指標であると考えられるため。	ア	目標: 16,900人、令和2年度および令和3年度上半期まではCOVID-19感染拡大及びその対応で新規入院患者数は令和元年度比7.1%減となった。令和元年度の数値を目標とした。
56) 病床稼働率(700床)	87.7% 85.1%	88.1% 78.1%	87.9% 77.3%	88.1% 71.5%	70.0% 64.8%	70.0%	66.0%		ア	目標: 66%、新規入院患者16,900人、平均在院日数10日とすると700床ベース(実費運用は800床)では66%(76%)となる。
XII 増収対策										
57) 入院準備	68,846円 71,980円	69,200円 76,753円	69,600円 78,977円	70,000円 82,902円	83,029円 89,231円	89,800円	○	入院における診療密度や病院の総合力を端的に表す指標であると考えられるため。	ア	令和3年度上半期の実績と令和4年度の診療報酬改定で更に上昇の可能性があるので設定した。
58) 特定入院料の算定率(ICU)		72.1%	85.7%	90.3%	85.9%	93.7%	90.0%		ア	加算適応のある重症患者に対して集中治療を行った指標である。
59) 特定入院料の算定率(HCU※) ※救命救急入院料算定病床		48.9%	43.4%	51.3%	49.6%	58.0%	51%		ア	加算適応のある重症救急患者に対して急性期治療を行った指標である。
XIII 費用合理化対策										
60) 材料費/医療収益	30.3% 31.5%	30.4% 31.9%	30.7% 34.1%	31.1% 35.7%	36.1% 37.7%	36.1%			ア	令和2年度が36.1%であり、コロナの影響や材料費の増大を考慮した。
61) 後発医薬品及びバイオ後続品効果額	-	-	32,170千円	10,000千円	67,000千円	160,000千円			イ、ウ	後発医薬品への切り替え効果が限界となる中、現在病院における高価な薬品の中心であるバイオ医薬品に着目し、それを後発薬へ切り替える方向とした。 アリムタは後発品切替済+BS切替対象全て切替えた場合の薬剤購入費の削減額は324,873,634円である。BSの適応疾患の違い、患者の希望などを考慮してBSに切り替え可能な割合は現時点で50%である。

令和4年度広島県病院事業経営計画の目標指標
 ≪安芸津病院≫

【設定区分】
 (ア)現行目標指標の継続、(イ)現行目標指標の修正(見直し)、(ウ)外部評価委員会の意見を踏まえて新設
 (エ)新型コロナウイルス感染症の影響を踏まえて新設、(オ)その他の課題等を踏まえて新設

参考資料2

目標指標(旧)【24項目】	重点指標	モニタリング	外部評価委員意見等
(1) 医療機能の強化			
I 医療提供体制の強化			
1)手術件数			
2)内視鏡検査件数			
3)救急搬送受入件数	○	○	■救急搬送受入数だけでなく、対象の地域において救急要請のどれくらいの割合を受け入れたかが、県立病院として役割を果たすといった観点から重要ではない。(谷田委員長)
4)専門外来受診患者数 (糖尿病、人工関節、骨粗鬆症、フットケア)	○	○	
5)健(検)診件数	○	○	
6)訪問看護実施数(1枠:30分)	○	○	■訪問看護実施数について、「枠数」は業務実績を示す指標だと思う。「当院の柱」に強く期待されているのは利用が拡大されることではないか。つまり、延利用数ではなく、実利用者数。(谷田委員長)
7)地域包括ケア病床における在宅復帰率	○	○	■地域包括ケア病床からの在宅復帰は必要条件なのだから必要なのか。(中西委員)
II 医療の安全と質の向上			
8)転倒・転落発生率(レベル2以上)			
9)入退院支援加算算定件数			
III 危機管理対応力の強化			
10)感染症に関する研修参加者数			
IV 地域連携の強化			
11)介護支援連携指導料算定件数			
12)患者紹介率			
13)患者逆紹介率			

目標指標(新)【31項目】	H29目標	H30目標	R元目標	R2目標	R3目標	R4目標	重点指標(モニタリング)	モニタリング選定理由	区分	設定理由
	H29実績	H30実績	R元実績	R2実績	R3実績(見込み)					
(1) 医療機能の強化										
I 医療提供体制の強化										
1)手術件数	380件	380件	380件	380件	290件	290件			ア	H29:344件、H30:326件、R元:278件、R2:262件、R3:220件(見込み) ここ数年の手術数の減少、患者数の減少、外科医1減などの要因からR3はこれまでの目標値を下げた。状況に変化がないことから、R3目標と同数の290件を据え置くこととした。
2)内視鏡検査件数	1,850件	1,900件	1,950件	2,000件	1,900件	1,900件			ア	患者数の減少、新型コロナの影響などからR3は若干下げて、1,900件とした。状況に変化が無いことから同じ目標数値を据え置くこととした。
3)救急搬送受入件数	370件	370件	370件	370件	370件	370件	○	地域から当院の二次救急機能が特に求められており、政策医療に係る重要な指標であるため。	ア	現在、救急要請に対応できていない案件の多くが「専門外」という理由である。各分野の専門医が揃っていない現状で単純には応需率を目標に掲げにくい。従来、従来からの指標とする。 現在、応需率は算出していないが、不応需案件については月ごとの状況を院内で共有していく。(地域連携の数値及び当直時の事例等) H29:401件、H30:349件、R元:406件、R2:330件、R3:252件(見込み) 新型コロナの影響から今年度は減少しており、目標数値は370件で据え置くこととした。
4)専門外来受診患者数 (糖尿病、人工関節、骨粗鬆症、フットケア)					770人	950人	○	特色である専門外来の取組を強化し、病院全体の患者増加につながる重要な指標であるため。	ア	H29:328人、H30:575人、R元:665人、R2:754人、R3:946(見込み) ・糖尿病 ……不明 ・人工関節 ……H29:6~ ・骨粗鬆症 ……R元:7~ ・フットケア ……H30:4~ その他にも専門外来(禁煙、ペースメーカー、ストーマ、乳腺、肛門、緩和ケア等)を設けているが、患者数が多い4つの外来を取り上げて目標指標とする。骨粗鬆症外来が今年度増加しており、来年度は今年度の実績水準の950人を目標とした。
5)健(検)診件数	2,337件	2,337件	2,337件	2,337件	2,790件	2,790件	○	健(検)診件数は地域からの健診受入れは、今後の患者集客を図る重要な指標であるため。	ア	引き続き、指標は健(検)診件数とするが、取組状況では内訳を出すこととし、内容は検査項目(一般健診・胃がん・乳がん等)等を検討する。 H29:2,715件、H30:2,838件、R元:3,254件、R2:2,743件、R3:2,600件(見込み) コロナ禍における実績見込みがR3目標数値と大きく変わらないことから、状況を踏まえ目標数値2,790件を据え置くこととした。
6)訪問看護実施数						1,700件	○	在宅医療は当院の柱の一つとして、地域からも強く期待される分野であり、その活動の実績を表す指標であるため。	イ	従前の枠でカウントするのではなく、実施(日ごとの患者宅に行った)件数でカウントする。(医療、介護の内訳はモニタリング時に記載する) H29:1,864件、H30:1,665件、R元:1,570件、R2:1,804件、R3:1,695件(見込み) 近年の傾向から、R3年度実績見込みを少し上回る1,700件を目標値とした。
7)地域包括ケア病床における在宅復帰率	80.0%	80.0%	80.0%	80.0%	85.0%	85.0%	○	訪問看護と合わせて、在宅医療は、地域医療に関わる重要な指標であるため。	ア	目標値を必要条件以上に高く設定しており、今後の包括ケア病床の適正管理の面から、引き続き復帰率を目標としていく。 H29:89.2%、H30:81.7%、R元:84.9%、R2:89.1%、R3:75.0%(見込み) コロナの影響除くと、高い水準を維持していることから、これまでの目標値85.0%を据え置くこととした。
II 医療の安全と質の向上										
8)転倒・転落発生率(レベル2以上)					0.00020	0.00020			ア	H29:0.00027、H30:0.00045、R元:0.00055、R2:0.00019、R3:0.00020(見込み) 本年の見込み数値がR3目標数値と変わらないことから、現在の水準を維持できるように、目標数値を据え置くこととした。
9)入退院支援加算算定件数					800件	800件			ア	H29:607件、H30:729件、R元:834件、R2:769件、R3:670件(見込み) 現在のコロナ禍により、カンファレンスや施設職員等との連絡が円滑にいかない状況にあり、件数は伸び悩んでいることから、これまでの目標値800件を据え置くこととした。
10)せん妄ハイリスク患者ケア加算算定件数	-	-	-	573件	520件	580件			オ	多職種チーム活動等に関する指標として、追加する。 昨年度と今年度見込みの高い方の数値を目標値の基準とした。
11)認知症ケア加算2算定件数 (14日以内の期間)	-	-	-	301件	156件	300件			オ	多職種チーム活動等に関する指標として、追加する。 昨年度と今年度見込みの高い方の数値を目標値の基準とした。
12)在宅患者支援病床初期加算算定件数	-	-	-	694件	826件	830件			オ	多職種チーム活動等に関する指標として、追加する。 昨年度と今年度見込みの高い方の数値を目標値の基準とした。
III 危機管理対応力の強化										
13)感染症に関する研修参加率						100%			イ	新型コロナウイルス感染症対策の徹底が必要であることから、職員の研修会参加率の目標を100%とした。
IV 地域連携の強化										
14)介護支援連携指導料算定件数	120件	120件	120件	120件	200件	200件			ア	H29:127件、H30:123件、R元:228件、R2:124件、R3:80件(見込み) 現在のコロナ禍により、カンファレンスや施設職員等との連絡が円滑にいかない状況で件数は伸び悩んでいるが、本年度以上の実績を目指す意味で200件の目標を据え置くこととした。
15)患者紹介率	18.8%	17.9%	20.4%	21.5%	22.2%	23.0%			ア	H29:18.8%、H30:17.9%、R元:20.4%、R2:21.5%、R3:22.2%(見込み) ここ数年上昇基調にあるが、R3目標には到達できていないことから、目標23.0%を据え置くこととした。
16)患者逆紹介率	23.4%	26.1%	28.4%	29.7%	28.2%	30.0%			ア	H29:23.4%、H30:26.1%、R元:28.4%、R2:29.7%、R3:28.2%(見込み) ここ数年、上昇基調にあるが、R3目標には到達できていないことから、目標30.0%を据え置くこととした。

令和4年度広島県病院事業経営計画の目標指標
 ≪安芸津病院≫

【設定区分】
 (ア) 現行目標指標の継続、(イ) 現行目標指標の修正(見直し)、(ウ) 外部評価委員会の意見を踏まえて新設
 (エ) 新型コロナウイルス感染症の影響を踏まえて新設、(オ) その他の課題等を踏まえて新設

参考資料2

目標指標(旧) [24項目]	重点指標	モニタリング	外部評価委員意見等
(2) 人材育成機能の維持			
V 医師の確保・育成			
14) 初期臨床研修 地域医療研修の受入人数			
VI 看護師等の確保・育成			
15) 認定・専門看護師数			
16) コメディカル部門の認定資格取得 専門的研修参加者数 (放射線、検査、薬剤、栄養、リハビリ)			
VII 県内医療水準向上への貢献			
17) 地域開放型研修会の参加者数			

目標指標(新) [31項目]	H29目標	H30目標	R元目標	R2目標	R3目標	R4目標	重点指標 (モニタリング)	モニタリング 選定理由	区分	設定理由
	H29実績	H30実績	R元実績	R2実績	R3実績 (見込み)					
(2) 人材育成機能の維持										
V 医師の確保・育成										
17) 初期臨床研修 地域医療研修の受入人数	7人	7人	7人	7人	8人	8人			ア	H29:10人、H30:8人、R元:8人、R2:8人、R3:8人(見込み) 例年5月~12月まで毎月1人ずつ、計8人を受け入れている。現行体制では、これ以上の受入れは困難であり、これを維持することを目標とする。
VI 看護師等の確保・育成										
18) 認定・専門看護師数					1人	1人			ア	以前は0名の年度が続いていた。今年度は1名の資格取得者を予定しており、それを維持することを目標とする。
19) メディカルスタッフ部門の認定資格取得・専門的研修参加者数 (放射線、検査、薬剤、栄養、リハビリ)	0人	0人	0人	0人	1人	1人			ア	以前は0名の年度が続いていた。今年度は1名の資格取得者を予定しており、それを維持することを目標とする。
VII 県内医療水準向上への貢献										
20) 地域開放型研修会の参加者数					30人	30人			ア	令和3年度は実施が出来なかったが、令和4年度は地域の医療従事者へのWeb研修等についても検討した上で再開するととし、目標値についてはR3目標値である30人を据え置くこととした。

(3) 患者満足度の向上			
VIII 患者満足度の向上			
18) 患者アンケートの満足度(入院)			
19) 電話再診件数			
IX 業務改善			
20) TQM手法習得者数			
			■5S活動を活発にお願いします。(中西委員)
X 広報の充実			
21) HP閲覧件数			

(3) 患者満足度の向上										
VIII 患者満足度の向上										
21) 患者アンケートの満足度(入院)	95.0%	95.0%	95.0%	95.0%	98.0%	98.0%			ア	近年100%に近い水準で推移しており、これを維持する。
22) 電話再診件数	97.9%	97.1%	97.4%	99.1%	250件	200件			ア	R2年度からの本格実施で、R2:188件、R3:190件(見込み) 新型コロナウイルスの影響を見込みにくい、今年度と同数程度を維持することとした。
0件	0件	11件	188件	190件						
IX 業務改善										
23) TQM手法習得者数					20人	10人			ア	新型コロナ等の影響で中断しているTQM活動を再開することを目標とし、R元数値の半分程度を目標とした。
24) 5S活動参加率					50.0%	70.0%			ウ	5S活動をさらに定着させるための指標を追加する。(事例発表会・研修会などへの参加対象者の参加割合) R2:50%(見込み)であり、それを上回る70%の参加率を目標とした。
-	-	-	-	-						
X 広報の充実										
25) HP閲覧件数					16,500件	16,500件			ア	R3:15,896件(見込み)、これまで年間15,000件程度(平日50件程度)の閲覧件数があるが、R3目標には到達できていないことから、目標を据え置くこととした。
-	-	-	-	-	15,896件					

(4) 経営基盤の強化			
XI 経営力の強化			
22) 病床稼働率(98床)			
XII 増収対策			
23) 地域包括ケア病床稼働率(29床)		○	■地域包括ケア病床稼働率について、一般病床の稼働率と比較が必要ではないか。(中西委員)
			■入院単価をせめて40,000円に持っていき活動を行う。(和田委員)
XIII 費用合理化対策			
24) 材料費/医薬収益			
			■後発医薬品について数量ではなく金額ベースで比較することがよい。(和田委員)

(4) 経営基盤の強化										
XI 経営力の強化										
26) 新規入院患者数	1,192人	1,056人	1,112人	988人	852人	1,000人			オ	耐震化対応も踏まえ、新規入院患者受入れの強化が必須であり、指標に追加する。 H29:1,192人、H30:1,056人、R元:1,112人、R2:988人、R3:852人(見込み) 現状、現実的に可能な水準としてR2実績を上回る1,000人を目標とした。
27) 病床稼働率(98床)	93.8%	80.1%	81.1%	74.4%	73.6%	90.0%			ア	耐震化対応を踏まえ、経営基盤の強化が必要であるため、現状からは高い目標とはなるが90%とした。
XII 増収対策										
28) 地域包括ケア病床稼働率(29床)	98.0%	98.0%	98.0%	98.0%	98.0%	98.0%		○	ア	地域の医療ニーズへの貢献を表すとともに、経営改善に係る重要な指標であるため。
29) 入院単価						35,000円			ウ	耐震化対応を踏まえ、経営基盤の強化が必要であるため、病床稼働率に加えて入院単価を指標に追加する。 H29:31,358円、H30:33,737円、R元:33,561円、R2:34,356円、R3:34,133円(見込み)、緩やかではあるが上昇基調であることから、35,000円を目標とした。
31,358円	33,737円	33,561円	34,356円	34,133円						
XIII 費用合理化対策										
30) 材料費/医薬収益						21.7%			ア	新型コロナの影響や材料費の増大を考慮した。
19.1%	20.0%	19.9%	20.0%	26.8%						
31) 後発医薬品及びバイオ後続品効果額					150千円	300千円			ウ	費用合理化を進める必要があることから、後発医薬品及びバイオ後続品への切替による効果額を指標に追加する。 R3:150千円(見込み)の増加させることを目標として、2倍の300千円を目標とした。
-	-	-	-	-						